

2014.1.8

Tel 080-3451-8400

E-mil hasshoren8.zim@softbank.ne.jp

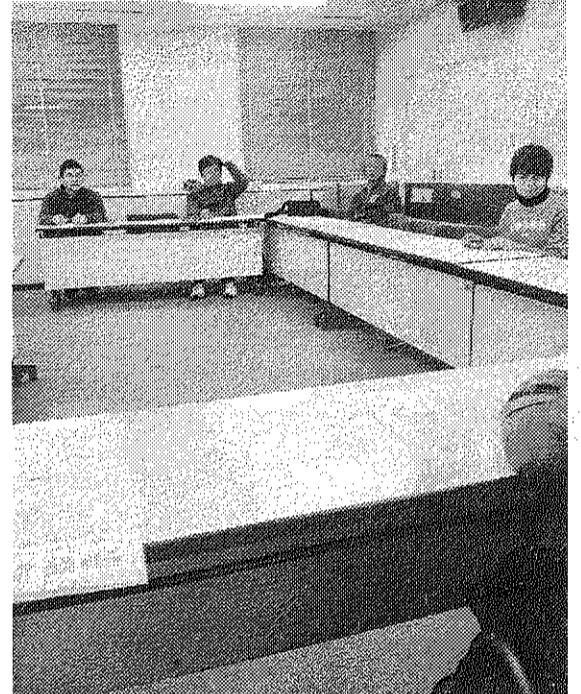
例会の報告

12月19日の例会では、NPO 法人若駒ライフサポート(第二若駒グループ)の移行後について、大須賀理事長と米山施設長から報告があった。1971年、八王子肢体不自由児者父母の会として発足した当時の様子から、「どんなに重い障害があっても地域で暮らそう」という理念とともに、現在のNPO法人へと歩んできた道のりについて、時折、意見交換を交えながら、和やかに進行していった。

40余年前の八王子は、障害者の社会進出へ繋がる資源などが限りなく少なかった時代という事もあり、リフトバスを走らせる運動や作業所づくりが盛んな時期であった。当時の様子と今を比較すると、時代の流れと共に、利用者のニーズや価値観は少しずつ変化してゆき、当事者が自分達で社会資源を作り出そうとしていた活動意識は次第に薄れ、あくまでもサービスとして若駒を利用される受動的な利用者が増えきた印象を受ける。

そういった流れや支援法施行も関連し、父母の会として発足した親を中心とした運営形態にも限界を感じるようになってきた事もあり、職員を中心とした運営へと変化してゆくと共に、平成23年4月NPO法人取得となった。

しかし、発足当初からの変わらぬものとして、理念と個別プログラムがある。移行によるメリット、デメリットが生じてはいるが、必要とされる制度にはないサービスや、プログラムに必要なマンパワーの確保については、ボランティアなどで工夫をし、現状を維持できるよう努めている。これまでの活動内容から、若駒の良さや価値を理解してくださっている方々がいらっしゃることは実感している事もあり、今後も期待に応えられるよう、若駒の良さや価値を維持し、次の世代へ繋げてゆきたいと説明があった。(川田)



～第二若駒の家が「笑いの国」で有り続けるために～

NPO 法人 若駒ライフサポート
第二若駒の家 所長 米山やよい

私が「第二若駒の家」に就職したのは今から15年前のことです。福祉職は初めてで、私にこの仕事ができるのだろうかとても不安がありました。働きはじめてびっくりしたのはその活動内容で、自分自身で毎日の活動を定める「個別プログラム方式」でした。毎日、それぞれのメンバー(利用者)が違う活動をします。ある人は「好きなアーティストのDVDを見る」ある人は「ボランティアさんと江ノ島水族館に行く」ある人は「自宅での夕飯の買い物」等々、生活に必要なことから趣味のことまで多岐に渡っていました。十人十色とはこのことで、それぞれのメンバーの個性がきらりと光っていました。私は、今まで抱いていた「THE施設」のイメージが覆され、心の中が楽しみな気持ちでいっぱいになりました。また、若駒が目指す「どんなに障害が重くても生まれ育った地域で暮らそうよ」というものはこのようなことから始まっていくのだと誇りにも思えました。とはいえ、このプログラムを実現するにはマンツーマンに近い介助体制でなければなりません。運営費はかなり厳しかったですが、なるべく多くの職員を配置し、たくさんのボランティアさんにも協力していただきました。あるメンバーからは「若駒は笑いの国だね！」と言ってもらえ、「金は無くとも笑いはある！」とみんなで笑いあったりしたものでした。

そのような中、時代とともに「生活介護移行」という話しが持ち上がってきました。勉強不足の私は「職員体制に制限があるかも」という情報も入ってきて「このままでは個別プログラムができなくなってしまう」と、とても不安になりました。しかし、いろいろと調べていくうちに、今まで通りの体制で活動ができることがわかり、2010年10月に移行しました。移行してよかったことは、職員体制を厚くすると加算がつくということで、今まで以上の職員体制を組めたことです。また、看護職員に来てもらうことで、メンバーの健康面でのサポート力が増しました。他にも、メンバーの自己負担が少なくなったことや、改修工事をさせてもらい使いやすくなったことなどいろいろとあり、移行して良かったと思います。

今回、例会で発表させていただいた時に「これからは地域で暮らすというのは形が変わってくるよね」と御意見をいただきました。私は、とても心に響きました。なぜなら、いま一番考えていることだからです。「普通に暮らしたいのに難しいことがある」未熟さゆえでしょうか？ジレンマとのたたかいです。それでもやっぱり「メンバーの笑顔のために」「メンバーにとって必要なことを」念頭に置いて、これからも活動していきたいと思えます。

Hasshoren Tsushin

事務局通信 Vol.6

新年明けましておめでとうございます。年が明けて最初の事務局通信となります。

異常気象と自然災害が猛威を振るい、現政権の掲げるアベノミクスの意味不明感も重なり、先行きが読めない一年が過ぎて、新しい年を迎えても、やはり先行きが読みづらい社会情勢は相変わらずのようですが、各団体の現場はどんな様子でしょうか。

社会情勢を反映している訳ではありませんが、実は私たち八障連もここへ来て、厳しい立場に追いやられていることに、気付いている方はどの位いるでしょうか。一言で表現すると、“今後進むべき道筋が見出せず迷っている”そんな感じでしょうか。30年近く前の発足時とは周辺状況は大きく変わり、細かな個別の課題は別として、大きな課題はほぼ片づき、行政との関係も対立から共動へと変化中、その象徴的な存在の自立支援協議会が発足後3年でようやく軌道に乗り、八障連からも多くの人材が参加、これまで八障連が担っていた役割も微妙にそちらへ移り始めています。このまま行くと、“八障連としての存在価値は無くなってしまわないか？”そんな思いさえ頭をもたげてしまいます。

年明け初となる1月16日の例会では、その大きな課題をどう乗り越えていくか、意見交換と検討をしていく予定です。八障連とは何なのか？各団体はなぜ参加しているのか？改めて考え直す時期が来ているのかも知れません。

1月例会にはぜひ多くの方にご参加頂き、一緒に考えて頂けると助かります。合わせて、別紙資料もご参照下さい。(多田)



連載コラム 『日々のなかから、、、』 vol.26

事務局長 杉浦 貢



パラリンピックが正式名称に

1985年、IOCは国際調整委員会(ICC)がオリンピック年に開催する国際身体障害者スポーツ大会を「Paralympics(パラリンピックス)」と名乗ることに同意しました(オリンピックという言葉の名乗ることは禁止された)。しかし、従来のパラリンピックという言葉は、対麻痺者のオリンピックという意味であったことから、身体障害者の国際大会になじまなかったため、パラ=Parallel(類似した、同様の)+Olympics(オリンピックス)と解釈することになりました。

競技性の高いスポーツ大会へ

1986年、聴覚障害者の国際スポーツ団体である国際聴覚障害者スポーツ協会(現 国際ろう者スポーツ委員会=ICSD)と国際精神薄弱者スポーツ協会(現 国際知的障害者スポーツ連盟=INAS-FID)がICCに加盟しました。しかしICCは、国際障害別団体の会長や代表などにより組織されていたため、実働組織として十分に機能していませんでした。そのため、リハビリの延長ではなく競技性の高いスポーツ大会を望む多くの競技者やスポーツリーダーから不満が続出していました。

そこで1987年、アーヘン(オランダ)での会議が世界の情勢を大きく変えることとなります。これらの不満を解消するための特別委員会を設立し、すべての競技者、組織や国・地域(スポーツ組織が独立している地域を含む)の統一組織の設立について模索が始められ、1988年、ICC主催により「ソウルパラリンピック」が開催され、30か国から3,200名の選手が出場した(聴覚障害者と知的障害者の出場は認められていなかった)。この大会は、オリンピック組織委員会がオリンピックとパラリンピックを連動させたはじめての大会でした(オリンピックで使用した会場も使用された)。同年1月、前回同様インスブルックにおいて第4回冬季大会が実施されています。

国際パラリンピック委員会(IPC)設立

1989年9月22日、ドイツのデュッセルドルフの会議において国際パラリンピック委員会が創設されました。それ以来、パラリンピックは障害者にスポーツ活動の機会を提供する理念「機会均等と完全参加」と、「障害者のスポーツのエリート性」を表す言葉になりました。初代会長に、カナダのロバート・D・ステッドワード博士が就任。

1997年、ドイツのボン市がIPCの本部誘致に成功。当時、ドイツの首都がボン市からベルリン市に移転したことにより、ボン市は国際的なステイタスを失うことを危惧していた。そこでボン市は、築100年以上の歴史的な建物と改築費を提供し1998年9月にIPC事務局が始動。それと同時に、IPCの事務を引き継げる14名の専門チームを募集し、それ以来、効率的でプロフェッショナルな事務局運営がなされるようになりました。

今後のスケジュール

| | | | |
|----------|---------|---------|--------------|
| 1月16日(木) | 例会 | 18時~20時 | クリエイトホール(未定) |
| 1月30日(木) | 運営委員会 | 18時~20時 | クリエイトホール(予定) |
| 2月15日(土) | ボウリング大会 | 13時~16時 | 高尾スターレーン |
| 2月20日(木) | 例会 | 18時~20時 | クリエイトホール(未定) |
| 3月20日(木) | 例会 | 18時~20時 | クリエイトホール(未定) |